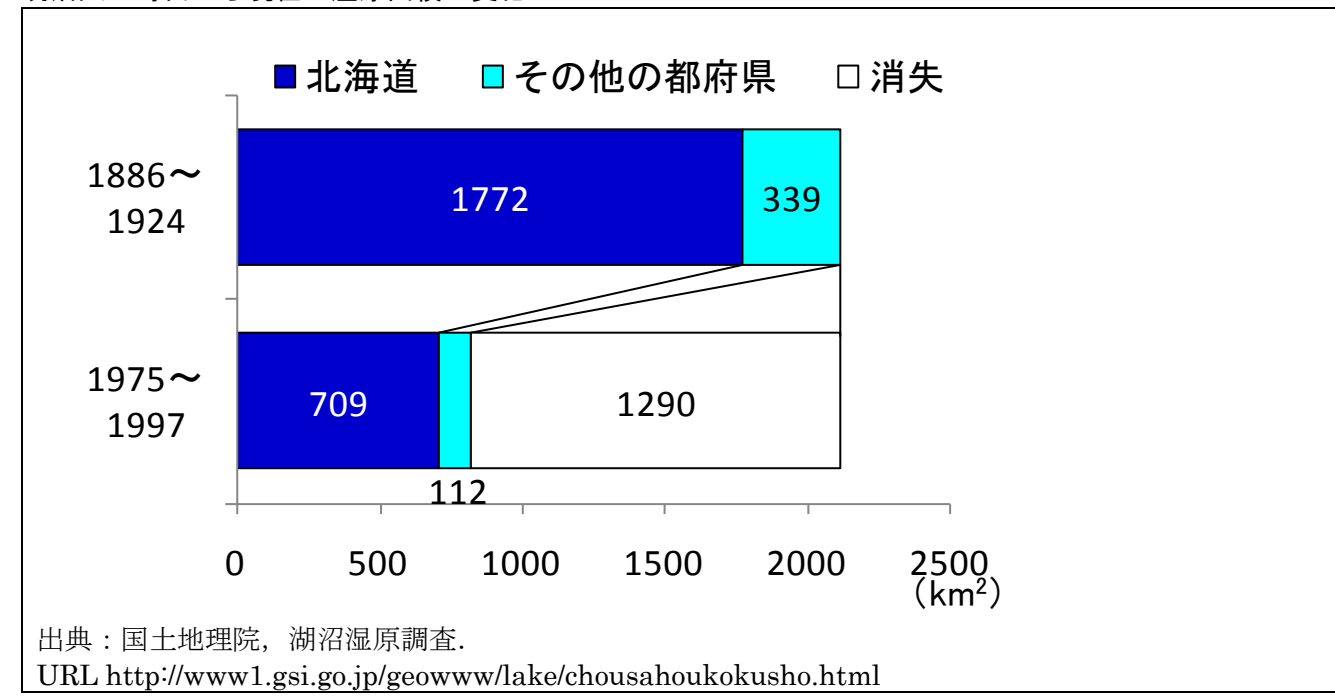


陸水域の変化に伴う淡水魚類・両生類への影響の事例

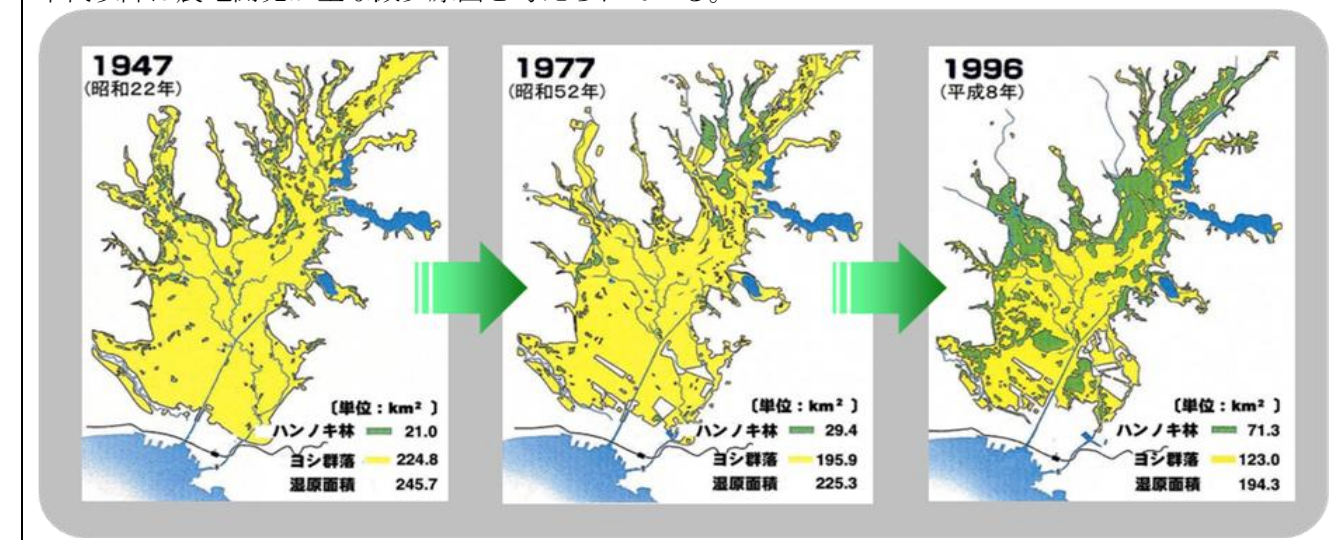
- 湿原の減少をはじめ、陸水域の環境は近年大きく変化した。
- 陸水域に生息する淡水魚類と両生類について、それぞれ 30%以上の種が絶滅危惧種とされている。
- それらの減少要因として、河川開発、水質汚濁、道路工事、森林伐採などが挙げられている。

明治大正時代から現在の湿原面積の変化

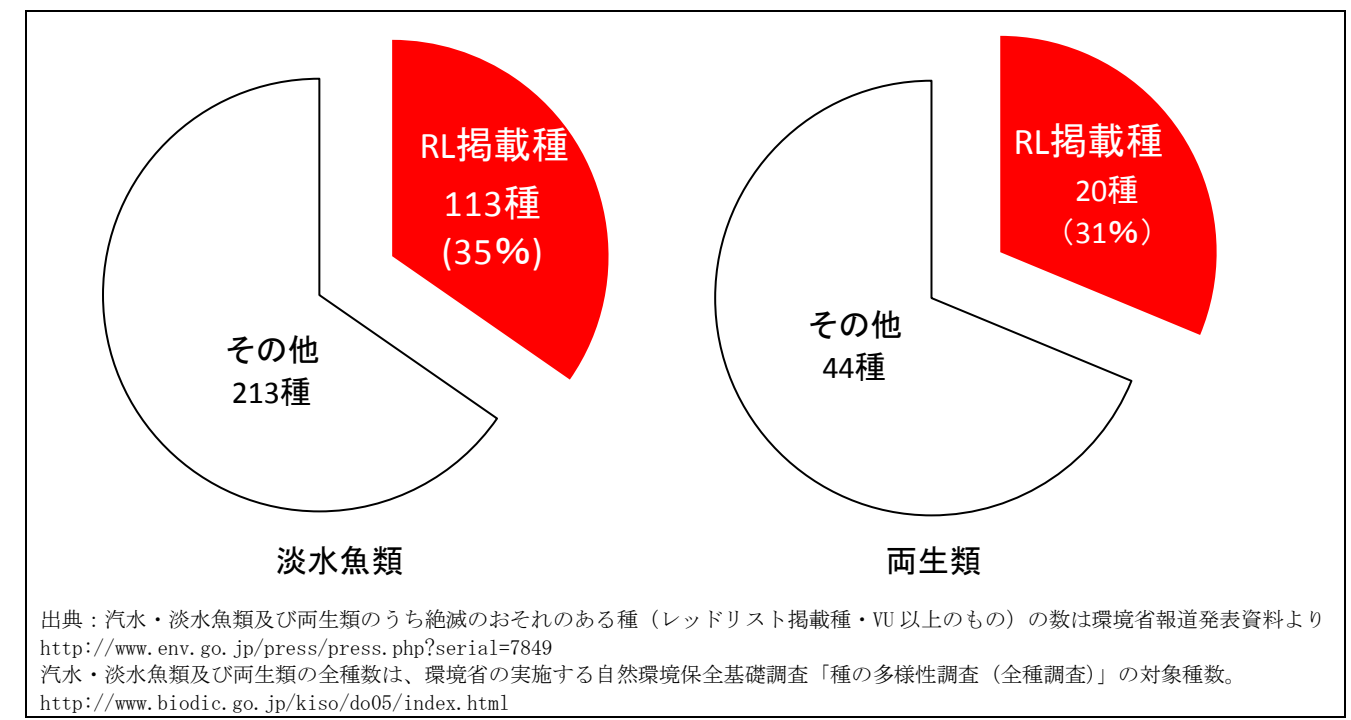


釧路湿原における湿原面積の急激な減少と湿原植生の変化

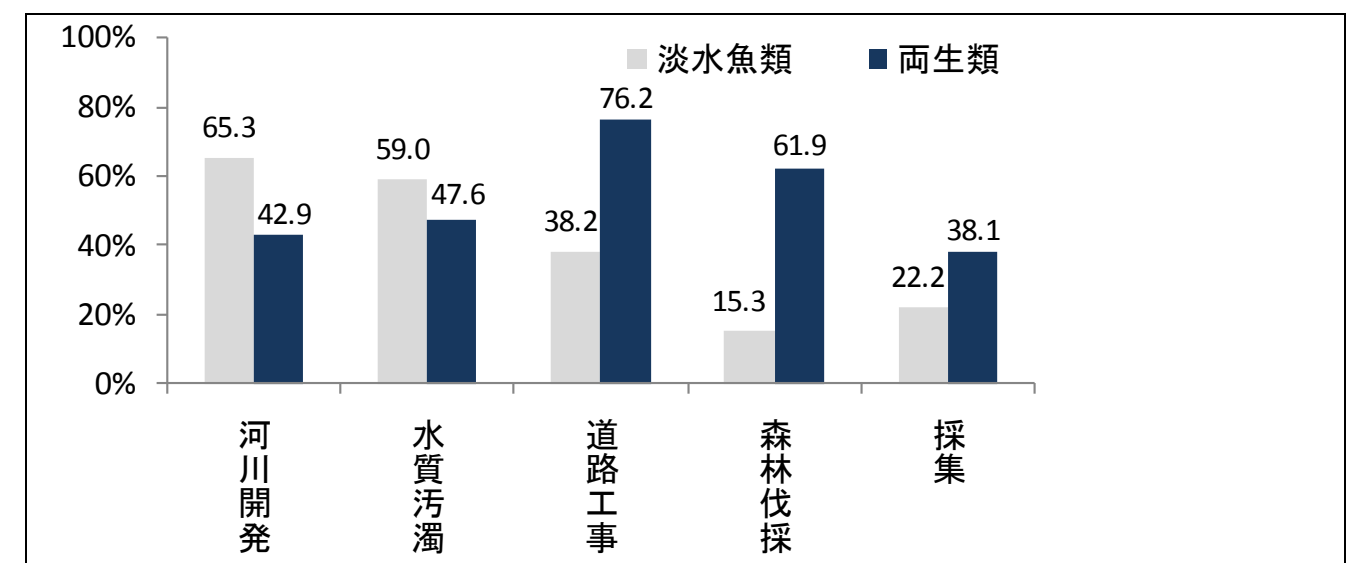
近年の50年間で釧路湿原のおよそ20%の面積が減少している。1947～1970年代は市街地造成が、1970年代以降は農地開発が主な減少原因と考えられている。



陸水域に生息する生物（淡水魚類及び両生類）の中で絶滅のおそれのある種の割合



陸水域に生息する絶滅危惧種の減少要因



環境省編（2002）改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—2. 鳥類. 自然環境研究センター. 東京, 278p.



ホトケドジョウ（絶滅危惧Ⅱ類）



カスミサンショウウオ（絶滅危惧Ⅱ類）